

菜の花

NHO IBUSUKI MEDICAL CENTER

No. 56
令和5年9月



当院のロゴマークは、指宿市が誇る「菜の花」をモチーフにしています。



たくさんの黄色い円は花の部分を表しており、菜の花は小さな花が集まって1つの花を形成しているというように、病院のスタッフ1人ひとりが集まって、病院という組織があるのだということを表現しています。

緑の弧は菜の花の葉と、病院（花の部分）には新しい風が常に舞い込み、また病院が地域に新しい風を送り出しているという「風」のイメージを示しています。

contents

- P.2 患者さんのこれまでの人生に寄り添った医療の実現を目指して
- P.3-4 職員合同宿泊研修会
- P.5 指宿南九州消防組合との事後検証会並びに親睦会
- P.6 ふれあい看護体験報告
- P.7 マタニティヨガの再開
- P.7 口腔ケアラウンドを再開しました
- P.8 連携先病院紹介 指宿おおしげ内科
- P.9 指宿 菜の花通信
- P.10 外来診療担当医一覧

理念

患者さまにやさしく、
地域に信頼される
良質な医療の提供をめざします。

運営方針

- 1 がん診療の治療の向上をめざします。
- 2 成育医療の充実をめざします。
- 3 救急医療の充実をめざします。
- 4 地域医療機関との連携を図り、説明と同意に基づいた安全で質の高い医療をめざします。

患者さんのこれまでの人生に 寄り添った医療の実現を目指して

3年間、新型コロナウイルス感染症パンデミック対応に追われ、診療体制を一部制限してきましたが、2023年5月からの5類感染症移行に伴い、幅広い医療機関での対応が可能になりましたので、現在当院は平時の医療体制をとっています。

6月9日には第3回職員合同宿泊研修会をベイヒルズホテルで開催しました。
“患者さんのこれまでの人生に寄り添った医療の実現を目指して”このテーマで石本 田鶴子先生を講師にお招きしました。

石本先生は別府市を本拠地とし、九州内外各方面で人材育成のコミュニケーション研修やコーチングを展開し、受講者は延べ1万人になるそうです。当院での講演は3回目になりますが、今回も新しい気づきがありとても充実した研修でした。2日間で63名の職員参加がありました。

今回の研修で私が学んだことをいくつか紹介します。

コミュニケーションの核心テーマ「自己重要感」が大きなカギを握っています。人間の根源的欲求である自己重要感とは、「自分が価値のある存在であること」を自分自身でも思っていたいし、他人からも認めて欲しいとする人間の深層心理です。

この「自己重要感」が満たされない日々が続くと仕事へのやる気がなくなり、マイナス思考に陥り、愚痴や不満が多くなり憂鬱な毎日を送ることになります。

相手の「自己重要感」を満たすために是非やって欲しいことが、言葉の投げかけ「プラスのストローク」です。思ったり、感じたり、察したりしたプラスのことを口にすると相手は「心のコップ」が満たされ「自分の価値」を認めてもらったと実感します。

具体的には、ほめる、ねぎらう、認める、励ます等の言葉の投げかけや「有難う」「おかげで助かりました」などの感謝の気持ちを言葉で表すと相手の「自己重要感」が満たされます。毎日、3人に対してプラスのストロークを実践することで、チーム力がアップするそうです。そして、患者さんに寄り添った気持ちも育むことができます。

2日目には「何があったら、どんな工夫をしたら、どんな考え方をしたら、もっと寄り添える医療ができるか」を8班でそれぞれ、3つずつ具体的に出し合いました。

まず、どの班でも「笑顔で挨拶」、「自発的な挨拶」、「忙しいからこそ声掛け」、「忙しくても3分程度は立ち止まって丁寧に対応できる」など挨拶の重要性が指摘されました。

次に「患者さんのこれまでの人生に興味を持つ」、「職業は?」、「先入観をなくして患者さんの思いに寄り添う」、「家族の立場で考える」、そしてこれらの情報を多職種間で共有することが挙げられました。

今回のテーマは医療者にとり普遍的なテーマともいえますが、参加した職員を中心に「プラスのストローク」を各職場で実行し継続することが大切です。「指宿医療センターで良かった」と患者さんやご家族に思ってもらえる病院を目指したいと思います。



院長
鹿島 克郎



第3回職員合同宿泊研修会に参加して

教育担当師長 仁井田 康男

4年ぶりに2度目の参加でした。「寄り添える医療の実現」のために多職種で意見交換をしました。研修を通して、職員一人ひとりが専門性を活かし、地域に暮らす患者さんとその家族のために力を合わせることが大切だと考えました。患者さんに寄り添う第一歩は「関心を寄せ、知ろうとすること」だと考え、看護部でも取り組みを進めていきます。指宿医療センターの「仲間意識」の強さを改めて感じとても心強く思いました。



職員研修での学び

3病棟 看護師 津島 勇一

日々看護を行う中で、皆さんは何を一番大事にしているのでしょうか。私は、患者さんとの関わりの中で、患者さんのいきがいや大切にしていること、また、今後の生き方などを聞き、その思いを大切に、看護を実践しています。研修では、他者との関りで、自己重要感を満たすことの大切さや、そのコミュニケーションの在り方について学びました。患者さんが自分の病気と向き合い、どうありたいのかを話し合うACP（アドバンスケアプランニング）では、患者さんを尊重し、患者さんが自己重要感を感じられるようなコミュニケーションが必要です。研修で学んだ、「寄り添う・認める・褒める」などの言葉を取り入れながら患者の思いを大切にした看護を行っていききたいです。



職員研修での学び

4病棟 看護師 福富 愛美

今回、職員合同宿泊研修に参加し「患者さんのこれまでの人生に寄り添う」というテーマについて様々な職種の方々と話し合いました。その中で、患者さんとの意図的な会話が大切であることを改めて学びました。研修後には患者さんと意図的に会話をし、退院後にどのような支援が必要なのかを考え、多職種と連携した退院支援をすることができました。スタッフが積極的なコミュニケーションをとり、その情報を共有することが、患者さんに寄り添った医療の提供に繋がることを学びました。



職員研修での学び

3病棟 看護師 上之園 七海

職員合同宿泊研修に参加し、今回のテーマでもある「寄り添える医療」がどのように実現できるのかを考える機会になりました。これまでの患者さんとの関わりを振り返ると、身体症状ばかりに目をむけてしまい、患者さんの人生背景について情報がとれておらず、患者さんの理解が不十分であったと感じました。また、職員間でお互いをねぎらったり、励ましあったり、相手の自己重要感に働きかけることも重要だと学びました。「プラスのストローク」を実践し、患者さんへの寄り添いの気持ちを大切にしながら療養生活を支えていきたいと思っています。



今回の宿泊研修では、「患者さんのこれまでの人生に寄り添った医療の実現を目指して」というテーマのもと、相手とコミュニケーションをとる際のポイントや、自身のメンタルの状態を表す「自己重要感」について講義が行われました。自己重要感を満たすためにも感謝の気持ちや労いの気持ちを相手に伝えるプラスのストロークを相手にしていくことで会話が増え、お互いが理解しあえる環境となり、結果的には自分自身の自己重要感も満たされます。今年の三月まで大学生だった私は、コミュニケーション能力も精神的な面でもまだまだ未熟です。今回の講義で学んだ相手や自分自身の自己重要感を満たすコミュニケーションやリスニングを活かして、患者に寄り添った医療の実現に貢献していけたらと思います。



第3回職員合同宿泊研修会を終えて

研究検査科 臨床検査技師 清 美沙紀

6月9日(金)夕方～10日(土)に第3回職員合同宿泊研修会に参加いたしました。講師の石本先生からコミュニケーションを行う上で、どんなことが大切かという講演が行われました。

その中で自分は必要とされている・価値がある存在だと感じる「自己重要感」というワードが出てきました。これを高めるには、自己肯定感と他者からの承認が必要ということで、グループ内にてお互いに相手のいいところを伝え合いました。

改めて正面から相手のいいところを見つけて褒めるのは私を含め皆照れた様子でしたが、互いに相手の新たな一面を知ることができました。こういったことが普段コミュニケーションを行う上で大切なのだと学ぶことができ、日常業務の中でも活かしていこうと思います。



(メディアポリス国際陽子線治療センター 回転ガントリー)

2日目の研修では、寄り添える医療を実現するために各グループ内で普段仕事をする中での感じたこと、自身が患者として、またはその家族として実際に感じた事を交えながら、具体案を出していきました。

1日目での研修から更に踏み込んだディスカッションを各グループにて出来ていたように感じます。また、普段関わり合いのない職種間での意見交換は新鮮で、とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。

研修後は陽子線施設見学に参加させていただきました。陽子線治療って聞いたことはあるけど実際どんな治療なんだろう?と参加前は思っていたが、放射線治療との違いや、どのような装置を使用しているのか熱心に教えていただき理解を深めることができました。特に回転ガントリーという機械が動く様は見学者一同、某ロボットアニメに出てきそうだなあと感想が出てくるほど、迫力があり一見の価値ありでした。指宿にいるからこそ知ることが出来た陽子線治療、保険適用される癌の種類も増えているようで、もっと周知されたら良いなと思いました。



指宿南九州消防組合との事後検証会並びに親睦会



経営企画係長 江良 真弥

当院では、地域の救急隊員の技術向上のため、年に2回、指宿南九州消防組合との間で救急搬送症例の事後検証会を実施しており、本年度1回目となる検証会を8月25日（金）に当院地域医療研修センターにて開催いたしました。今回は、救急隊員より「車両進入困難な場所からの心肺停止傷病者の症例」、「眼科系疾患症例」、「院外心停止に対する市民啓発活動の報告」、当院より「人生の最終段階にある患者の事前指示書の運用」について発表、問題提起が行われ、それに対して当院の医師や消防組合の方々が意見や助言を行う形式で進められました。また、今回はコロナ禍以前に実施していた親睦会も併せての開催となり、様々な観点から情報交換を行うことができ、双方にとって収穫の多い会となりました。



ふれあい看護体験報告

令和5年7月31日(月)

県内の高校生9名が参加しました



看護の道を志す学生に、実際の看護に触れる機会を持ってもらうために、看護体験を行いました

参加した高校生の感想

- 将来、看護師になりたいと参加しました。実際に患者さんの足を洗ったり、話をしたりして、もっと看護師になりたい気持ちが高まりました。患者さんの目線に合わせ、笑顔でゆっくり大きい声で話をしている看護師さんを見て、すごく憧れました。
- 患者さんと接することで、自分も相手も元気になることにやりがいを感じました。
- 1番印象に残ったのが看護師さんの笑顔です。患者様とコミュニケーションをとる際に大きな声で聞き取りやすく笑顔で対応していて素晴らしいと思いました。
- お風呂に入れたり、つめを切ったりしてみて、技術だけでなく人とのコミュニケーションもとても大事ななと思いました。
- 患者さん一人ひとりに合ったケアやコミュニケーションをとっていて、患者さんが一番身近で頼れる看護師さんだなと思いました。看護師さんから直接話を聞けることはあまりないので、すごくいい機会になりました。
- 親身になって受け答えをする、目線は外さないように心がける、笑顔であることをマスク越しでもわかってもらうように、表情を大げさに表すことが大事だということを感じることができました。
- 赤ちゃんにミルクを与えたり、抱っこをしたりなど普段できないことをさせてもらったので良い経験になりました。
- この病院では様々な病棟があり、多くの経験ができることに魅力を感じました。受験に向けての良いスイッチとなったと思います。
- 将来、看護師になりたいので看護師さんたちの動きを見て、私も将来こんなふうになれたらいいなと感じました。そのためにまず看護学校に進学して看護の勉強を頑張っていきたいと思います。



担当したスタッフの感想

4年ぶりの開催でしたが、高校生の看護体験の様子から、私たち自身が看護のすばらしさを改めて感じ、初心に戻る機会となりました。コロナ関連の報道等で看護は「大変な仕事」というイメージが広がりましたが、私たちが大切にしている「こころくばり」に気付いてくれたことはとても嬉しく思います。地域密着を目指す指宿医療センターで、地元の若者たちと一緒に働ける日がとても楽しみです♪

教育担当師長 仁井田 康男





マタニティヨガの再開



経営企画係長 江良 真弥



指宿医療センターでは当院通院中の妊婦さんを対象としたヨガ教室を令和元年度のコロナ禍前まで開催しておりましたが、今年度6月より再開いたしました。ヨガの呼吸法、リラクセス法には妊娠中の体調不良の改善効果、お産が楽になる効果があります。また妊娠中の運動不足やストレス解消にも役立ちます。どの妊娠週数でも参加可能で、多数の妊婦さんにご参加いただいております。



口腔ケアラウンドを再開しました

庶務係長 吉村 美穂



新型コロナウイルスの感染法上の位置づけが5類になったことを受け、指宿医療センターでは「口腔ケアラウンド」を令和5年7月より再開しました。

再開にあたり医科歯科連携協議会の中で、口腔ケアラウンド事前調査票を見直したり、ラウンド時の留意点をおさらいしたりしました。

口腔ケアは、患者さんの口腔衛生状態の改善および担当看護師への口腔ケア指導を行うことで誤嚥性肺炎の予防や手術合併症等の軽減に大きな効果があります。

今年度新たな取り組みとして、「口腔内細菌カウンター」を用いて口腔ケアを必要とする患者さんのケア介入前後の細菌推移を数値化する取り組みも始めました。

来年で医科歯科連携協議会は10年目を迎えます。今後も指宿市歯科医師会との連携を図り、患者さんのお口の健康を守ってまいります。



連携先 病院紹介

医療法人 指宿おおしげ内科



医 師 理事長 大重 勝彦
 院 長 大重 聡彦（糖尿病）
 医 師 大重 雅寛（呼吸器内科）
 医 師 大重 彰彦（消化器内科）

診療科目 一般内科、糖尿病、呼吸器内科、
 消化器内科、小児科



診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
08:00～12:30 (外来受付時間 08:00～12:00)	●	●	●	●	●	●	/
14:30～18:00 (外来受付時間 14:00～17:30)	●	●	●	/	●	▲	/

休診 木曜日午後、日曜日・祝日（▲土曜日は 16:00 まで）

ここ指宿で医療に携わるようになって約50年になります。当時は医療機関の数も多く、錚々たる諸先輩方が活躍しておられました。一番の若造としては他院に負けぬように必死で頑張っていたように思い出します。最近では医療機関の数も減少傾向にあり、自分の努力だけではなく、地域の先生方と協力してこの地の医療を守っていくことの重要性を改めて思い知らされています。

2023年4月より当院は4人体制となり、一般内科、小児科、発熱外来をはじめ、糖尿病、呼吸器内科、消化器内科といった専門医も揃い、総合的な診療を行っています。中でも、日本人の死因の上位を占める悪性疾患、心疾患や脳血管疾患（動脈硬化性疾患）のスクリーニングに力を入れており、異常を認めた場合、指宿医療センターの各専門領域の先生方へ、精密検査を依頼しています。当院のようなクリニックにとって、指宿医療センターとの連携は極めて重要で、言わば命綱です。専門医の見地から、適切な助言をいただけるため、患者様にも安心してお勧めすることが出来ます。また、緊急時や入院を要する場合には、急な相談にも快く対応していただき、大変感謝しています。

今後も指宿医療センターと緊密に連携することにより、病院とクリニックが一体となって地域住民の包括的な健康づくりを進めていければと願っています。

<当院から指宿医療センターへの紹介実績> (2023年3月～5月)

脳神経外科	54件	腎臓内科	5件	外科	3件
循環器内科	27件	総合診療内科	4件	小児科	2件
消化器内科	25件	整形外科	4件	呼吸器内科	2件
泌尿器科	13件	産婦人科	4件	眼科	1件



田舎医者の流儀 (212)・・・またまた出合った初めての症例

高血圧で治療中の67歳女性が最近頻尿・多尿で、そのため不眠だと訴える。血液検査では血中Naが低下しており、何らかの器質的疾患が疑われた。蓄尿して尿比重の測定などが必要と考え、精査のため入院となった。主治医はいろいろ調べて、結果を内分泌専門医にも相談し、「鉍質コルチコイド反応性低ナトリウム (Na) 血症」という事になった。



鉍質コルチコイド反応性低Na血症は、腎でのNa保持能の減退を基盤にして低Na血症を惹起する病態で、これと似た病態に抗利尿ホルモン不適合分泌症候群がある。これは特定の不適切な状況下での下垂体による抗利尿ホルモン（バソプレシン）の放出量が多すぎることで発生しこれにより体液が保持され、血中のナトリウムの濃度が希釈されて低下する。高齢者の低Na血症の診断において治療方針が異なるので両者の鑑別が重要である。

医者になって50数年、総合内科を名乗って15年近く、またまた出合った初めての症例である。この患者さんはもともと訴えの多い方で自律神経症的病態を考えていた。しかし、訴えをよく聞くとそれと決めつけられないとも考えられた。低ナトリウム血症を足掛かりに検索を進め、バソプレション値の測定などを行いこの疾患にたどり着いた。疑問点をしっかり追及した結果が良かったのかな。

この半年で、初めて出会った症例があと2つあった。一つ目は血痰が出ると言って来院され、胸写を取ったがそれらしい病変は見当たらなかった。しかし、血痰の訴えであるので胸部CTは必要と考え施行した。思いもかけない事に甲状腺がんが気管に浸潤していた。それによる血痰が強く示唆された。大学の甲状腺外科に連絡し、早期の手術が予定された。血痰を軽視せずCT迄検査してよかったと思った。

もう一例は高カルシウム、低リン血症があると紹介を受けた。当然、副甲状腺機能亢進症を考えた。過去にも腎透析中の患者さんでそのような病態は経験していたが、この患者さんの腎機能低下は極く軽度であった。内分泌代謝内科に紹介検索の結果、本態性副甲状腺機能亢進症で、画像診断で縦郭部に腫瘍が見つかり、手術となった。

長年診療をやっていてもまだまだ私個人にとっては新しい疾患に遭遇する。疑問点を曖昧にせず追及することが大事であると思い知らされている。油断ならないよ。



外来診療担当医一覧

令和5年9月1日現在

診療科等		月	火	水	木	金	備 考
循環器内科	午前	鹿 島	吉 重	鹿 島 園	大 川 井 畑	鹿 吉 重	
総合診療内科	午前	大 井 花田(血液内科)	花 田	中 村	花 田	中 村	
消化器内科	午前	羽 田	(休 診)	小 川	千 堂	羽 田	
肝臓内科	午前		大 重		大 重		
小 児 科	午前	荒 武	田 邊	田 邊	関	田 邊	
	午後 外来 予防接種 健診	荒 武 田 邊 関	荒 武 関	関	荒 武 田 邊 関	関	午前診療：8時30分～11時 午後診療：14時～16時 予防接種 (毎週月曜・火曜・木曜) 受付14時(要予約) 一ヶ月検診 (月・木) 受付13時(要予約) 3～4・7～8・9～11ヶ月・1歳児健診(火曜) 受付13時45分(要予約)
外 科	午前	(手術日)	宮 蘭 迫 大	宮 蘭 迫 大	(手術日)	(手術日)	
泌尿器科	午前	栢 木	(手術日)	栢 木	栢 木 (再診のみ)	栢 木	
腎臓内科	午前	大 保				外部医師	17番診察室にて診察します。 10:00～(要予約)
産 婦 人 科	午前	鮫 島 塚 大	大 中 塚 園	(手術日)	鮫 中 島 園	鮫 島 塚 大	1ヶ月健診 (月・木曜日：要予約) 2週間健診 (月・火・木・金：要予約) 午後診療受付 (水・金曜日以外) 13時30分～15時(再診のみ) 母乳外来 (毎週火・木曜日) 母親学級 (毎月第2・3水曜日)
	午後	鮫 島 塚 大	大 中 塚 園 助産師 母乳外来	助産師 母親学級	鮫 中 島 園 助産師 母乳外来	(手術日)	
眼 科	午前	尾 辻 塚 鬼	尾 辻 塚 鬼	尾 辻 塚 鬼	尾 辻 塚 鬼	尾 辻 塚 鬼	月曜・火曜・水曜は午後から手術のため受付は午前10時までとなります。
	午後	(手術日)	(手術日)	(手術日)	(特殊外来)	(特殊外来)	木曜・金曜の午後は特殊外来(視野検査、レーザー治療、造影検査、硝子体注射など)
専 門 外 来	午前	呼吸器内科	小児外科		脳神経外科		呼吸器内科 毎週月曜日 予約制 呼吸器外科 毎月第2・4木曜日 (14時～16時) 予約制 小児循環器 毎週月・木曜日 (14時・15時・16時) 要予約 ※毎週火は16時のみ要予約
	午後	呼吸器内科 小児循環器	小児外科 小児循環器	もの忘れ 外来	小児循環器 呼吸器外科 脳神経外科		小児外科 毎月第1・3火曜日 (9時45分～14時30分) 要予約 もの忘れ外来 第2・第4水曜日 (14時～16時) 要予約 脳神経外科 毎週木曜日 (9時～16時)
内 視 鏡 検 査		千 堂 小 川	羽 田 堂 小 川	羽 田 堂 小 川	羽 田 井	赤 崎 堂 小 川	第2・第4木曜日 藤井
整 形 外 科	午前			織 田		織 田	水曜日・金曜日 9時～17時 受付：(織田先生) 9時～11時・14時～15時30分 鹿大医師(水)・(金) 午後 受付：13時～15時30分
	午後			織田・鹿大医師		織田・鹿大医師	



JR の場合

JR指宿枕崎線に乘車頂き、指宿駅で下車して下さい。
指宿駅から山川行バス(鹿児島交通)にて「指宿医療センター前バス停」(約10分)で下車して下さい。
当院の正面玄関前に停車します。

バスの場合

JR鹿児島中央駅(鹿児島市)から山川橋行バス(鹿児島交通)にて「指宿医療センター前バス停」で下車して下さい。当院の正面玄関前に停車します。

自動車の場合

鹿児島市からは、産業道路を進んで国道226号線を山川方面へ進んで下さい。
指宿医療センターは国道沿いにあります。

- 受付時間 午前8時20分～午前11時00分
- 診療時間 午前8時30分～午後17時15分
- 休診日 土・日・祝祭日・年末年始 ※急患の方は随時受付いたします。
- 電話番号 0993-22-2231

発 行：独立行政法人国立病院機構 指宿医療センター
〒891-0498 鹿児島県指宿市十二町4145番地
T E L：0993-22-2231 (代表)
F A X：0993-22-2772 (地域医療連携室)
U R L：https://ibusuki.hosp.go.jp
印 刷：株式会社陽文社